

## 令和7年度第7回陸前高田市津波避難計画策定アドバイザー会議 議事要旨

- 開催日時 令和7年8月30日（土）午後2時00分から午後6時30分まで
- 開催場所 陸前高田市消防防災センター2階 防災研修室
- 出席委員 牛山素行委員長、加藤孝明委員、関谷直也委員  
中村吉雄委員、福留邦洋委員
- 配布資料  
カムチャツカ半島付近で発生した地震に伴う津波警報への対応について
- 経過概要
  - 1 事務局より、次第の2「カムチャツカ半島付近で発生した地震に伴う津波警報への対応について」について説明を行った。
  - 2 議事3(1)津波シミュレーションについて、加藤委員から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。
    - (1) 復興祈念公園について
      - ・ カムチャツカ半島の地震のときには、復興祈念公園からの車両が気仙小学校の方向ではなく、まちなかの方向に避難したという報告があったが、この実態も踏まえてシミュレーションを考える必要があるのではないか。
      - ・ 復興祈念公園の駐車場から真っすぐに行けば、海に背中を向ける形になり、海から離れていくというイメージになるので、心理的には真っすぐ行きたくなるため、カムチャツカ半島地震の時でも、ほとんど気仙小学校方面に曲がる車が無かったようだ。
      - ・ 復興祈念公園からの避難者が気仙小学校ではなく、まちなか方向に避難した場合について検証を実施した結果、まちなか周辺からの車避難を抑制が課題となる。
      - ・ カムチャツカ半島付近の地震による津波警報のときは、別目的地に行くために三陸道を利用したというかなり特殊なケースだと思うが、復興祈念公園からの車避難については、まちなか方面ではなく気仙小学校に強く誘導する必要がある。
    - (2) 夢アリーナたかたについて
      - ・ 高田松原海水浴場からの避難者が、夢アリーナたかた前の道路で入庫待ちをすることで車列が伸びてしまわぬように夢アリーナたかたの職員が、車両の誘導を最優先でやるべきこととしてマニュアル化することが必要ではないか。また、夢アリーナたかた駐車場の入り口まで車列が詰まってきたら県立高田高等学校へ誘導を切り替えるが、指示に従ってくれるかどうかのリスクは考える必要がある。
      - ・ 高田松原海水浴場からの車避難は、県立高田高等学校優先で考えていたものを、夢アリーナたかた優先に変更する方が良いかもしれない。
    - (3) 高田松原運動公園
      - ・ 野球場・サッカー場のイベントでは、利用者しか駐車場を使用しないので、事前に避難方法等は、周知しやすいことから、最初から車を使わずに避難をさせる避難計画をつくること

も考えられる。

- ・ 津波警報等が発表されたときに、駐車場で車に乗ってる状態の人は、そのまま車避難をするが、球場に既に入場している人については、駐車場の車に戻るのではなく、徒歩で避難させる想定で良いのではないか。

3 議事3(2)「カムチャツカ半島付近地震（津波警報）における避難行動について」について牛山委員長から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。

- ・ 夢アリーナたかたをかなり積極的に活用するというのが一つの方法である。そもそも特に誘導しなくても夢アリーナたかたに車が来てしまうことが分かった。事業所関係の人たちは集まってくる。おそらく制御はできない。この周辺で、仕事をしている人たちのイメージとして、集まる場所は夢アリーナたかたという意識が既に形成されているようだ。
- ・ 復興祈念公園は、現在の計画ではそもそも車で避難することにはなっていないが、来場者はスタッフの誘導に従って気仙小学校に徒歩で避難をすることになっていたが、実際には全ての来場者が車で避難をした。
- ・ 朝の時間帯であったことや、津波注意報から津波警報に切り替わるまでに時間があつたことなどから、混乱も無く避難することが出来たが、お盆などの繁忙期に発生した場合に、全員が車避難をすると、かなり混乱することが予想される。
- ・ アバッセたかた周辺を含む嵩上げ地区は、津波警報では避難指示区域外であるが、今回は津波警報でも避難していたという状況があつた。

4 事務局から、第8回会議日程について、改めて日程調整を行うこととして説明を行った。